

授業科目名： マルチメディア演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 横山洋之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) マルチメディアデータのファイル形式や特徴を説明できる			
(2) コンテンツ制作に必要なツールを選定し使用することができる			
(3) グループでコンテンツ制作を行うための計画を立案できる			
(4) コンテンツ制作活動を通して立案計画を見直すことができる			
授業の概要			
本授業では、マルチメディアを通じて表現するために必要な技能と知識を習得すること、および情報システム開発者に求められるプロジェクト管理の基本事項を理解することを目的とする。具体的には、文字、画像（静止画像）、動画、音声など、形式の異なるデジタルデータを用いて、複数人で構成されるグループで一つのコンテンツを制作する活動計画を立案する。次に、グループでコンテンツ制作活動を行い、実行結果を踏まえて活動計画を見直し、改良方法を考える。			
授業計画			
1回目：ケーススタディの紹介、グループ分け			
2回目：画像・動画編集ソフトウェアの基本操作、計画表			
3回目：3DCGソフトウェアの基本操作、計画の立案			
4回目：立案計画の発表（中間発表）			
5回目：コンテンツ制作1（画像撮影など）			
6回目：コンテンツ制作2（画像加工など）			
7回目：立案計画の見直し			
8回目：見直し計画の発表（最終発表）、レポート課題			
テキスト			
今すぐ使えるかんたん iMovie [改訂2版]			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

中間発表30%、最終発表40%、およびレポート30%によって評価する。総合60%以上を合格とする。

授業科目名： マルチメディア演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 横山洋之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)プロジェクト管理の基本事項を説明できる			
(2)グループ内で進捗や課題などの情報を共有する方法を説明できる			
(3)マルチメディアデータを使用する場合の注意点を説明できる			
(4)制作したコンテンツの内容を説明できる			
授業の概要			
本授業では、マルチメディアを通じて表現を行なうために必要な技能と知識を習得すること、および情報システム開発者に求められるプロジェクト管理の基本事項を理解することを目的とする。具体的には、文字、画像（静止画像）、動画、音声など、形式の異なるデジタルデータを用いて一つのコンテンツを制作するための活動計画に基づき、グループ内で進捗状況を共有しながらコンテンツ製作活動を行う。さらに、製作したコンテンツを紹介するプレゼンテーションを行い、コンテンツ製作活動を通して得られた成果を発表する。			
授業計画			
1回目：プロジェクト管理における基本事項、計画の確認			
2回目：コンテンツ制作1（素材作成など）			
3回目：コンテンツ制作2（素材加工など）			
4回目：進捗報告会（中間発表）			
5回目：コンテンツ制作3（素材結合など）			
6回目： コンテンツ制作4（コンテンツの再生・確認など）			
7回目：コンテンツ説明資料の作成			
8回目：作成したコンテンツのプレゼンテーション（最終発表）、レポート課題			
テキスト			
今すぐ使えるかんたん iMovie [改訂2版]			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

中間発表30%、最終発表40%、およびレポート30%によって評価する。総合60%以上を合格とする。

授業科目名： ヒューマンコンピュー タインタラクションⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 水戸部一孝 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 視覚と聴覚を中心に、人間の情報受容能力とその特性を理解する。 2) 人間の情報発信・操作能力(言語、身体)について、その特性を理解する。 3) 人とコンピュータとのインタラクションに関する基礎知識と応用力を身につける。			
授業の概要			
全ての世代で利用しやすいコンピュータ、デジタルデバイドを解消できるインタフェースとは どのようなものだろうか？本講義では、ヒトとコンピュータのインターフェースおよびインタラ クションに着目し、ヒトの知覚・認知機能の特性を踏まえ、人間が使用するための対話型コン ピュータシステムのデザイン、評価、実装に関連し、それら周辺の主要な現象について基本と なる知識と技術を学び、HCIをデザインするための思考力を養成する。			
授業計画			
上記達成目標に沿って、順次講義形式で授業を進める。 第1回：人間とヒューマンコンピュータインタラクション 第2回：人間の生理的特性と認知モデル 第3回：対話型システムのデザイン1（ユーザ特性，メンタルモデル） 第4回：対話型システムのデザイン2（対話型システムの設計原則，対話形式） 第5回：入力インタフェース 第6回：ビジュアルインタフェース1（表示デバイス，ウインドウシステムの構成） 第7回：ビジュアルインタフェース2（情報視覚化の概念） 第8回：講義のまとめと最終試験			
テキスト			
「ヒューマンコンピュータインタラクション 改訂2版」，岡田 謙一 他，オーム社			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
各回の復習クイズ(30%)、最終試験(70%)の総合点で評価し、60%以上を合格とする。			

授業科目名： ヒューマンコンピューター インタラクションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 水戸部一孝 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 1) 人間の情報発信・操作能力(言語、身体)について、その特性を理解する。 2) 人とコンピュータとのインタラクションに関する基礎知識と応用力を身につける。 3) HCIに関する現状の課題を認識し、その解決方法を具体的に示すことができる。			
授業の概要 人間が使用するための対話型コンピュータシステムのデザイン、評価、実装に関連し、それら 周辺の主要な現象について基本となる知識と技術を記憶し、HCIをデザインするための思考力 を養成する。			
授業計画 上記達成目標に沿って、順次講義形式で授業を進める。 第1回：ノンバーバルコミュニケーション 第2回：インタフェースに使われるセンシング技術 第3回：バーチャルリアリティ技術とインタフェース 第4回：実世界志向インタフェース 第5回：共同作業支援のためのマルチユーザインタフェース 第6回：共有空間構築に必要な概念と技術 第7回：インタフェースの評価 第8回：講義のまとめと最終試験			
テキスト 「ヒューマンコンピューターインタラクション 改訂2版」, 岡田 謙一 他, オーム社			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 各回の復習クイズ(30%)、最終試験(70%)で評価し、総合点で60%以上を合格とする。			

授業科目名： 画像AI学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 景山陽一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) デジタル画像の特徴を列挙できる。			
(2) 2値画像の主な処理内容について説明できる。			
(3) 多値画像の主な処理内容について説明できる。			
(4) 機械学習（AI）と画像処理との関連について説明できる。			
授業の概要			
本科目は、コンピュータでデジタル画像を扱うために、画像処理の原理および各処理について学ぶ。具体的には、ユーザである人間の視覚メカニズムに関する概説を行い、画像の入出力、画像のデジタル化とその特徴、表色系について学ぶ。また、画像処理と機械学習（AI）の活用例について学ぶ。次に、2値画像処理として、概要、閾値処理、2値画像の連結性と距離、膨張・収縮処理、細線化、形状分析、符号化などの処理を学ぶ。さらに、多値画像処理として、濃度変換、ノイズ除去、平滑化、特徴抽出などの処理を学ぶ。			
授業計画			
1. ガイダンス、人間の視覚特性と画像の入力・出力			
2. 画像のデジタル化とその特徴、表色系			
3. 画像処理と機械学習（AI）の利活用			
4. 2値画像処理①（2値化の概要、閾値処理）			
5. 2値画像処理②（2値画像の連結性と距離、膨張・収縮処理）			
6. 2値画像処理③（細線化、形状分析、符号化）			
7. 多値画像処理①（濃度変換、ノイズ除去、平滑化）			
8. 多値画像処理②（特徴抽出）と試験			
テキスト			
・ 白鳥則郎：「画像処理」（共立出版）			
・ 適宜、資料を配布する。			

参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 筆記試験(40%)、レポート(30%)、授業時に行う課題演習(30%)で判定する。総点で60%以上を合格とする。

授業科目名： 情報科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 良雄
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業のテーマは情報教育に関する理解と共通教科情報科および専門教科「情報」の内容理解である。到達目標は次のとおりである。			
(1) 情報教育の目標と位置づけについて説明できる(知識)			
(2) 教科「情報」および専門教科「情報」の内容について説明できる（知識）			
(3) 教科「情報」の指導計画、学習指導案を作成できる（技能）			
(4) 教科や生徒指導通じて、情報モラルの指導を心掛けることができる（態度）			
授業の概要			
情報教育では科学的な視点と社会と情報とのかかわりに関する視点をはぐくむ必要がある。この授業では、「情報Ⅰ」について詳細に解説、検討し、それを実際の授業でどのように教えるのかについて実践的に学ぶものである。また、学校現場で問題になる情報モラルに留意しながら、「コンピュータとプログラミング」分野の授業を構築する。			
授業計画			
第1回：情報教育の背景と位置付けについて			
教育と情報の関りと現在の位置付けを概観するとともに諸外国の情報教育について解説する			
第2回：教科「情報」について			
共通教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」専門教科「情報」に関する内容について学習指導要領解説で確認する			
第3回：情報モラルについて（1）			
情報モラルについて学習指導要領解説及び教科書での取り扱いについて検討し、様々な実践例を紹介する			
第4回：情報モラルについて（2）			
情報モラルの現状について授業等で問題となる情報セキュリティや著作権法などの法律の現状を概観し、指導上注意すべき点を解説する。			
第5回： プログラミング教育について			
小中学校でのプログラミング教育について概観し、高校でのプログラミングの位置づけを確認する。また、様々な実践例を紹介する			

第6回：「コンピュータとプログラミング」分野について（1）

学習指導要領解説及び教科書での「コンピュータとプログラミング」分野の内容について詳細に検討する。

第7回：「コンピュータとプログラミング」分野について（2）

コンピュータの動作原理について専門的に理解を深める。

第8回：「コンピュータとプログラミング」分野について（3）

具体的なプログラミング言語について理解を深め、利用できるサイトや教材の研究を行う。

第9回：マイコンボードについて

システム構築やプログラミングを行える環境としてRaspberry Piやmicro:bitなどのマイコンボードについて解説し、発展的な学習への利用を考察する

第10回：共通教科「情報Ⅰ」の指導計画・学習指導案について

指導計画・学習指導案について一般的な書き方や注意点を解説し、事例を示す

第11回：学習評価について

共通教科「情報」の評価のデザインについて、一般的な考え方や注意点を解説する

第12回：「コンピュータとプログラミング」の指導案作成

共通教科「情報Ⅰ」の「コンピュータとプログラミング」分野を指導するための指導案および学習評価案をグループワークで作成する

第13回：模擬授業の実施

情報モラルの指導案をもとにグループ単位で模擬授業を行う

第14回：模擬授業の評価と改善

前回で行った模擬授業について評価をおこない、指導案の改善を行う

第15回：模擬授業総括

改善された指導案について再度模擬授業をおこない、評価及び総括を行う

定期試験は実施しない

テキスト

高等学校学習指導要領（平成30年2月告示 文部科学省）、
高等学校学習指導要領解説 情報編（平成31年2月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

3回の課題レポート（計30%）

指導案、模擬授業を評価する（60%）

グループワークでの発言等を評価する（10%）

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 良雄
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
この授業では次期学習指導要領改訂への対応と其中で示されている情報科の深い学びを実践できるようにすることがテーマである。				
到達目標は次のとおりである。				
(1) 学習指導要領での学びについて説明できる（知識）				
(2) 授業におけるICTの利活用について説明できる（知識）				
(3) アクティブ・ラーニングについて説明できる（知識）				
(4) アクティブ・ラーニングやICTを活用した授業を設計できる（技能）				
(5) 生徒が教科「情報」をより深く学ぶことを常に意識できる（態度）				
授業の概要				
この授業では学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」について理解を深めると同時に、ICT活用授業やアクティブ・ラーニングにより共通教科「情報」、とりわけデータを活用する分野に関して、深い学びをいかに作っていくかを受講生と議論しながら考えていく。				
授業計画				
第1回：共通教科「情報」について				
教科「情報」の目標と内容を学習指導要領及び解説に基づいて再確認する				
第2回：学習指導要領における学びについて				
学習指導要領の背景を解説し、学習指導要領に記述されている「主体的・対話的で深い学び」について議論を深める				
第3回：アクティブ・ラーニングについて				
アクティブ・ラーニングの意義と情報教育への応用について概観する				
第4回：アクティブ・ラーニングの実際				
アクティブ・ラーニングのいくつかの方法について解説し、実際に体験する				
第5回：ICTを活用した授業（1）				
ICTを活用した授業の意義と現状について概観し、授業で活用するICT機器とその特徴について議論する				
第6回：ICTを活用した授業（2）				
ICTを活用した授業の実践例について解説し、それをもとにより良いICT活用について議論する				

第7回： 共通教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」におけるデータの活用について

教科書における共通教科「情報Ⅰ」の「情報通信ネットワークとデータの活用」、「情報Ⅱ」の「情報とデータサイエンス」分野の内容を教科書等に沿って検討し、授業実践例を紹介する。

第8回： データの活用における統計の基礎事項の確認

データの活用を学ぶのに重要な統計について、数学での取り扱いや情報科の教科書での取り扱いを概観し、その基礎について確認する。

第9回： 情報通信ネットワークについて

情報通信ネットワークについての知識を教科書で確認するとともに、その現状について概観する

第10回： センサとデータの活用について

自動制御などで欠かせないものであり、データを収集するためにも役に立つセンサについて概観し、発展的な学習での活用について検討を加える

第11回： 指導案の実際

共通教科「情報Ⅰ」の「情報通信ネットワークとデータの活用」、「情報Ⅱ」の「情報とデータサイエンス」分野どちらかについて、グループワークで深い学びを実現する指導計画を作成する

第12回： 模擬授業への準備

模擬授業の指導案を作成し、評価方法について考察する

第13回： 模擬授業の実施

指導案をもとにグループ単位で模擬授業を行い、評価する

第14回： 模擬授業の評価と改善

前回で行った模擬授業の評価をもとに、指導案の改善を行う

第15回： 模擬授業の再実施

改善した指導案により模擬授業をおこない、評価する

定期試験は実施しない

テキスト

高等学校学習指導要領（平成30年2月告示 文部科学省）、
高等学校学習指導要領解説 情報編（平成31年2月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

課題レポート（計30%）

指導案、模擬授業を評価する（60%）

グループワークでの発言等を評価する（10%）

授業科目名： 教職インターン シップ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村 駿
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1) 「教職に関する科目」で既習した教育理論を基盤とし、「公の性質」を有する教師の社会的使命と責務を学生自身が再認識し、他学生との討論等を通じて自己の抱く教師像を再確認し、自己の教育観、指導観の萌芽を深化させ、涵養することができる。その契機として、「学校参観」及び「放課後ボランティア学習支援」活動を実施する。 2) 「学校参観」及び「放課後ボランティア学習支援」活動において、教育現場で求められる教師の具体的な資質能力を体験による経験知から考察し、「高等学校教育実習」の受講以前に、学生自身が備えておくべき自己の学習課題に関して、他の学生との討論等を通じて自己整理し、再確認できる。あわせて、後期中等学校の生徒の実態、学校と地域・保護者との関係性、教員の職務分掌など、ひろく学校経営及び授業運営を取り囲む社会背景、学校経営・授業運営の実践的課題までをも早期に確かな認識として自己理解できる。 3) 上記の1)と2)を涵養及び理解をしたうえで、「公の性質」を有する教育専門職者として職務遂行をするために、資質能力において、「教職に関する科目」及び「教科に関する科目」における学習を統合的に繋留志向し、ひろく教育実践営為においてレリヴェンス形成（学習することの意味内容の生徒への提示の意）できる資質能力を身につけ、加えて、幅広い教養と広範な社会的視野が不可欠であることをも理解できる。			
授業の概要 「学校参観」および「先進的な教育実践事例の検討」を通じて教職における視野を広げる。			
授業計画 第1回：現代の教育における課題の整理 第2回：「教育病理」（「いじめ」、「体罰」等）に対応した学校経営の実践事例の検討 第3回：生徒指導・進路指導の実践事例の検討 第4回：学校外のコミュニティと連携した学校経営の実践事例の検討 第5回：保護者と連携した学校経営の実践事例の検討 第6回：授業実践事例の検討 第7回：学習指導要領に基づいた教育実践事例の検討と指導案の作成			

第8回：学習指導要領に基づいた指導案の作成（略案）

第9回：ICTを活用した指導案の作成（細案）

第10回：グローバリゼーションに対応した授業の指導案の作成（細案）と検討

第11回：「学校参観」

第12回：「授業参観」

第13、14回：「放課後ボランティア学習支援」活動での学びからの省察

第15回：「学校参観」及び「放課後ボランティア学習支援」活動での学びからの省察

テキスト

大学が作成するテキストを随時配付する。

参考書・参考資料等

とくなし

学生に対する評価

授業参加の積極性と最終レポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 教職スキルアップ セミナー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村 駿
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1) 教育実践を多角的に分析する視点を持つ。 2) 教育実践に関する理論を自身の教育実践に適用することができる。 3) 教員として必要なスキルとは何かを理解し、常にそのスキルを養うための広い視野を持つことができる。			
授業の概要 具体的な授業実践や生徒指導の事例をもとにして、それらの教育実践を批判的に検討する。 また、自らが理想とする教育実践を行うための方法を学習する。			
授業計画 第1回～15回にかけて、教職に就くうえで自身がどのような課題をもっているのかを理解し、その課題の克服のための演習を行う。 また教員採用試験の対策も並行して行う。			
テキスト 大学が作成するテキストを随時配付する。			
参考書・参考資料等 とくなし			
学生に対する評価 授業参加の積極性と最終レポートにより総合的に評価する。			

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村 駿
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 介護等体験を通じて、中学校教師としての人間性やコミュニケーション能力を養う。			
授業の概要 介護等体験を通じて、人を支援する視点や姿勢を修得する。			
授業計画 ①事前指導Ⅰ… オリエンテーション～介護等体験とは～ ②事前指導Ⅱ… 体験先（特別支援学校、社会福祉施設）及び体験内容の説明～体験希望先の決定に向けて～ ③事前指導Ⅲ… 介護等体験の趣旨、手続き ④事前指導Ⅳ… 介護等体験の留意点 ⑤介護等体験…特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間 ⑥事後指導…体験での学びの振り返り、課題の明確化等 ※各自特別支援学校や社会福祉施設の種類や内容を調べる。			
テキスト 大学が作成するテキストを随時配付する。			
参考書・参考資料等 石川准・長瀬修編，1999，『障害学への招待』明石書店			
学生に対する評価 特別支援学校及び社会福祉施設における介護等体験の実施（体験先からの体験証明書の受領を含む）、体験修了報告書の提出、事前指導及び事後指導への出席を前提とし、体験先での姿勢・態度、体験終了後の体験感想レポート（体験修了報告書の裏側に記す）等により、総合的に評価します。			

授業科目名： 日本国憲法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 棟久 敬
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 憲法上の基本的な概念を説明できる。			
2) 日本国憲法の重要な条文の解釈を説明できる。			
3) 各講義で紹介する憲法上の問題についての的確に説明できる。			
授業の概要			
この講義では、近代以降の立憲主義の理念と現代にいたるまでの歴史や原理、基本的人権保障のあり方に関する基本原則、憲法が保障する基本的人権の前半部分（幸福追求権、法の下での平等、精神的自由、人身の自由）の解釈論について解説する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：憲法はどこからきたのか			
第3回：基本的人権とは何か・個人の尊厳			
第4回：基本的人権の射程と名宛人			
第5回：法の下での平等			
第6回：内心の精神活動の自由—思想・良心・信教の自由、政教分離原則			
第7回：表現の自由			
第8回：人身の自由			
テキスト			
西原博史・斎藤一久（編著）『教職課程のための憲法入門〔第2版〕』（弘文堂）			
参考書・参考資料等			
学習用の六法を用意すること			
学生に対する評価			
学期末試験の結果（80％）及び各回ごとの確認テスト及び小テスト（20％）による。総合60％以上を合格とする。			

授業科目名： 日本国憲法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 棟久 敬
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 日本国憲法の重要な条文の解釈を説明できる。			
2) 各講義で紹介する憲法上の問題についての的確に説明できる。			
3) 実社会において生じている憲法問題について自分の力で正確な情報を判別したうえでの的確に理解し、その問題にどう対処すべきかを自分の力で考えることができる。			
授業の概要			
この講義では、日本国憲法が保障する基本的人権の後半部分（経済的自由、社会権、参政権）について解説し、次いで国民主権原理や権力分立、法の支配等の国の統治に関する基本原則、国会・内閣・裁判所といった国の機関相互の関係およびそれぞれのもつ権限や仕組みとその限界、憲法が保障する地方自治の原則や仕組み、平和主義（歴史、憲法9条の解釈と現代的展開）について、日本国憲法の入門および一般教養としての解説を行う。			
授業計画			
第1回：経済的自由と社会権			
第2回：教育を受ける権利			
第3回：参政権と国民主権原理			
第4回：国会			
第5回：内閣			
第6回：裁判所・違憲審査制			
第7回：地方自治			
第8回：平和主義			
テキスト			
西原博史・斎藤一久（編著）『教職課程のための憲法入門〔第2版〕』（弘文堂）			
参考書・参考資料等			
学習用の六法を用意すること			
学生に対する評価			
学期末試験の結果（80％）及び各回ごとの確認テスト及び小テスト（20％）による。総合60％以上を合格とする。			

授業科目名： スポーツ実技Ⅰ－１	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 0.5単位	担当教員名： 伊藤恵造
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。 選択したスポーツ種目の知識と基礎的な運動技能を習得する。具体的には次のとおり。 (1) 基礎的なゲームを行うことができる。 (2) 基礎的なルールを守っている。 (3) スポーツ種目の知識と基礎的な運動技能を身につけている。			
授業の概要 スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と基礎的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、種目選択 第2回：基礎的技能の習得 第3回：基礎的ルールの理解 第4回：ゲームなかで基礎的技能（フォーム）を習得する 第5回：ゲームなかで基礎的技能（正確性）を習得する 第6回：ゲームなかで基礎的技能（速さ）を習得する 第7回：ゲームなかで基礎的技能（順応性）を習得する 第8回：まとめ、基礎的技能の評価			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『観るまえに読む大修館スポーツルール2023』（大修館書店，2023年）			
学生に対する評価 スキルテスト（50％）：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能（技術・戦術）の到達目標に準拠する。 ゲームの観察（30％）：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。 受講態度（20％）：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。以上の結果を総			

合的に評価し、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (60点未満)の5段階で評価し、C評価以上の学生に単位認定する。

授業科目名： スポーツ実技Ⅰ－２	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 0. 5 単位	担当教員名： 伊藤恵造
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。			
選択したスポーツ種目の知識と基礎的な戦術を習得する。具体的には次のとおり。			
(１) 基礎的なゲームを行うことができる。			
(２) 基礎的なルールを守っている。			
(３) スポーツ種目の知識と基礎的な戦術を身につけている。			
授業の概要			
スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と基礎的な戦術を習得し、ゲームについて学習する。			
授業計画			
第１回：ガイダンス、種目選択			
第２回：基礎的技能を活用した戦術（攻撃）の理解			
第３回：基礎的技能を活用した戦術（防御）の理解			
第４回：ゲームのなかで基礎的な戦術（攻撃・個人）を高める			
第５回：ゲームのなかで基礎的な戦術（攻撃・グループ、チーム）を高める			
第６回：ゲームのなかで基礎的な戦術（防御・個人）を高める			
第７回：ゲームのなかで基礎的な戦術（防御・グループ、チーム）を高める			
第８回：まとめ、基礎的な戦術の評価			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
『観るまえに読む大修館スポーツルール 2 0 2 3』（大修館書店，2023年）			
学生に対する評価			
スキルテスト（50％）：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能（技術・戦術）の到達目標に準拠する。			
ゲームの観察（30％）：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。			
受講態度（20％）：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。以上の結果を総			

合的に評価し、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (60点未満)の5段階で評価し、C評価以上の学生に単位認定する。

授業科目名： スポーツ実技Ⅱ－１	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 0. 5 単位	担当教員名： 伊藤恵造
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。 選択したスポーツ種目の知識と発展的な運動技能を習得する。具体的には次のとおり。 (1) 発展的なゲームを行うことができる。 (2) 発展的なルールを守っている。 (3) スポーツ種目の知識と発展的な運動技能を身につけている。			
授業の概要 スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と発展的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、種目選択 第2回：発展的技能の習得 第3回：発展的ルールの理解 第4回：ゲームなかで発展的技能（フォーム）を習得する 第5回：ゲームなかで発展的技能（正確性）を習得する 第6回：ゲームなかで発展的技能（速さ）を習得する 第7回：ゲームなかで発展的技能（順応性）を習得する 第8回：まとめ、発展的技能の評価			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『観るまえに読む大修館スポーツルール 2 0 2 3』（大修館書店，2023年）			
学生に対する評価 スキルテスト（50％）：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能（技術・戦術）の到達目標に準拠する。 ゲームの観察（30％）：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。 受講態度（20％）：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。以上の結果を総			

合的に評価し、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (60点未満)の5段階で評価し、C評価以上の学生に単位認定する。

授業科目名： スポーツ実技Ⅱ－２	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 0. 5 単位	担当教員名： 伊藤恵造
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。			
選択したスポーツ種目の知識と発展的な戦術を習得する。具体的には次のとおり。			
(１) 発展的なゲームを行うことができる。			
(２) 発展的なルールを守っている。			
(３) スポーツ種目の知識と発展的な戦術を身につけている。			
授業の概要			
スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と発展的な戦術を習得し、ゲームについて学習する。			
授業計画			
第１回：ガイダンス、種目選択			
第２回：発展的技能を活用した戦術（攻撃）の理解			
第３回：発展的技能を活用した戦術（防御）の理解			
第４回：ゲームのなかで発展的な戦術（攻撃・個人）を高める			
第５回：ゲームのなかで発展的な戦術（攻撃・グループ、チーム）を高める			
第６回：ゲームのなかで発展的な戦術（防御・個人）を高める			
第７回：ゲームのなかで発展的な戦術（防御・グループ、チーム）を高める			
第８回：まとめ、発展的な戦術の評価			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
『観るまえに読む大修館スポーツルール 2 0 2 3』（大修館書店，2023年）			
学生に対する評価			
スキルテスト（50％）：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能（技術・戦術）の到達目標に準拠する。			
ゲームの観察（30％）：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。			
受講態度（20％）：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。以上の結果を総			

合的に評価し、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (60点未満)の5段階で評価し、C評価以上の学生に単位認定する。

授業科目名： スポーツ理論 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 伊藤 恵造
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツについての社会的な基礎理論を学ぶ。			
授業の概要 スポーツについての社会的な基礎理論を、さまざまな事例等を通じて学ぶ。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション—スポーツと社会 第 2 回：現代スポーツの光と影（1） 第 3 回：現代スポーツの光と影（2） 第 4 回：障害者とスポーツ（1） 第 5 回：障害者とスポーツ（2） 第 6 回：スポーツと地域づくり（1） 第 7 回：スポーツと地域づくり（2） 第 8 回：スポーツと地域づくり（3）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『メガ・スポーツイベントの社会学〈増訂版〉』松村和則 編（南窓社 2007年）、『よくわかるスポーツ文化論』井上俊・菊幸一 編（ミネルヴァ書房 2012年）			
学生に対する評価 （1）レポート（80%） （2）受講態度（20%） （3）出席は全授業時間数の 3 分の 2 が必要 以上の結果を総合的に評価し、S(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(60点未満)の5段階で、C評価以上の学生に単位認定する。			

授業科目名： スポーツ理論 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松下 翔一
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツについてのトレーニングおよびコーチングにおける基礎理論を学ぶ。			
授業の概要 スポーツについてのトレーニングについて理解を深めコーチングにおける基礎理論を学ぶ。			
授業計画 第 1 回：スポーツトレーニングとは 第 2 回：スポーツトレーニングの基礎 第 3 回：筋力トレーニングの手段と方法 第 4 回：スポーツにおける筋力トレーニング 第 5 回：スポーツコーチングの基礎 第 6 回：有酸素系トレーニングの基礎 第 7 回：試合に向けたコンディショニング 第 8 回：トレーニングおよびコーチングのまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『筋力トレーニングの理論と実践』 関子浩二 編（大修館書店 2009年）			
学生に対する評価 （１）レポート（８０％） （２）受講態度（２０％） （３）出席は全授業時間数の 3 分の 2 が必要 以上の結果を総合的に評価し、S(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(60点未満)の5段階で、C評価以上の学生に単位認定する。			

授業科目名： 大学英語 I		教員の免許状取得のための 総合環境理工学部 … 選択科目 情報データ科学部 … 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大西洋一
				担当形態： 単独
科 目		免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
本科目は、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を養成することを目的とし、英語の 4 技能（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）および語彙力と文法能力を統合的に育成する。 到達目標：コース終了までに、以下のことができるようになる。 1) まとまりのある文章を読む、または聞く場合に、その主旨を理解し、求められる情報を取り出すことができる。 2) 語彙や文法の知識やそれらを実際に使う技能を身に付ける。 3) 大学で用いられる基本的な会話表現を使用することができる。				
授業の概要				
* 各回の授業で主に行なうことは以下のとおりである。 1) 文章の内容を予測する。 2) 文章全体の内容や主旨を理解するために読む／聞く。 3) 文脈や状況に応じた語彙及び文法の学習をする。 4) メモ取り（ノートテイキング）を行う。 5) 大学での勉強に必要な英語表現を使用する。				
授業計画				
第 1 回：Course Introduction 授業概要の説明				
第 2 回：[Speaking] Group Work 1: Getting to know each other お互いのことを知り合う				
第 3 回：[Reading] Unit 1A: The World's Game (1) 文章全体の主旨の理解				
第 4 回：[Reading] Unit 1A: The World's Game (2)文章の内容確認および語彙・文法の学習				
第 5 回：[Reading] Unit 1A: The World's Game (3) 練習問題				
第 6 回：[Writing] Paragraph Writing (1) パラグラフとは何か				
第 7 回：[Listening] Power Listening リスニング力強化のために				
第 8 回：Review 第 2 回～第 7 回授業の復習（理解の確認）				
第 9 回：[Reading] Unit 1B: What Makes an Olympic Champion?(1) 文章全体の主旨の理解				
第 1 0 回：[Reading] Unit 1B: What Makes an Olympic Champion? (2) 文章の内容確認および				

語彙・文法の学習	
第11回：[Reading] Unit 1B: What Makes an Olympic Champion? (3) 練習問題	
第12回：[Listening] Unit 1 [Video] Sport Climbing (1) ノートテイキングと主旨の把握	
第13回：[Listening] Unit 1 [Video] Sport Climbing (2) スクリプトによる内容確認と練習問題	
第14回：[Writing] Paragraph Writing (2) パラグラフの構成要素	
第15回：Review 第9回～第14回授業の復習（理解の確認）	
定期試験	
テキスト	Nancy Douglas & David Bohlke, <i>Reading Explorer</i> Book 3 [3rd Edition] (Cengage Learning)
参考書・参考資料等	Amy Hemmert & Ged O'Connell, <i>Communicating on Campus</i> (Alta Book Center Publishers)
学生に対する評価	
授業内の活動・小テスト・作文課題 50% + 定期試験 50%	

業科目名： 大学英語Ⅱ		教員の免許状取得のための 総合環境理工学部 … 選択科目 情報データ科学部 … 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名：大西洋一	
						担当形態： 単独	
科 目		免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標							
本科目は、「大学英語Ⅰ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を統合的に養成することを目的とした科目である。「大学英語Ⅱ」では特に、パラグラフ（段落）の構造の理解を中心に英語の論理構造に関わる知識を確実に習得し、英語による読解力と聴解力および発信力を向上させる。 到達目標：コース終了までに、以下のことができるようになる。 1) まとまりのある文章を読む、または聞く場合に、その主旨を理解し、求められる情報を取り出すことができる。 2) 語彙や文法の知識やそれらを実際に使う技能を身に付ける。 3) 英語の文章構造に基づいたパラグラフを書くことができる。							
授業の概要							
*各回の授業で主に行なうことは以下のとおりである。 1) 文章の内容を予測する。 2) 文章全体の内容や主旨を理解するために読む／聞く。 3) 文脈や状況に応じた語彙及び文法の学習をする。 4) メモ取り（ノートテイキング）を行う。 5) 大学での勉強に必要な英語表現を使用する。							
授業計画							
第1回：Course Introduction 授業概要の説明							
[Speaking] Group Work 2: Making an Appointment 面会の約束をする							
第2回：[Reading] Unit 6A: The World’s Favorite Drug (1) 文章全体の主旨の理解							
第3回：[Reading] Unit 6A: The World’s Favorite Drug (2) 文章の内容確認および語彙・文法の学習							
第4回：[Reading] Unit 6A: The World’s Favorite Drug (3) 練習問題							
第5回：[Writing] Paragraph Writing (1) パラグラフにおける結束性・統一性							
第6回：[Listening] Power Listening リスニング力強化のために							
第7回：Review 第1回～第6回授業の復習（理解の確認）							
第8回：[Reading] Unit 6B: Addicted to Distraction (1) 文章全体の主旨の理解							

第9回 : [Reading] Unit 6B: Addicted to Distraction (2) 文章の内容確認および語彙・文法の学習

第10回 : [Reading] Unit 6B: Addicted to Distraction (3) 練習問題

第11回 : [Listening] Unit 6 [Video] World of Caffeine (1) ノートテイキングと主旨の把握

第12回 : [Listening] Unit 6 [Video] World of Caffeine (2) スクリプトによる内容確認と練習問題

第13回 : [Writing] Paragraph Writing (2) パラグラフを書いてみる

第14回 : [Writing] Paragraph Writing (3) パラグラフを書いてみる

第15回 : Review 第8回～第14回授業の復習 (理解の確認)

定期試験

テキスト Nancy Douglas & David Bohlke, *Reading Explorer* Book 3 [3rd Edition]
(Cengage Learning)

参考書・参考資料等 Amy Hemmert & Ged O'Connell, *Communicating on Campus*
(Alta Book Center Publishers)

学生に対する評価

授業内の活動・小テスト・作文課題 50% + 定期試験 50%

授業科目名： 大学英語Ⅲ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大西洋一
				担当形態： 単独
科 目		免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
本科目は、「大学英語Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を統合的に養成することを目的とした科目である。「大学英語Ⅲ」では特に、人文・社会・科学の各分野における発展的な内容の英語の文章を正確かつ効率的に読めるように、様々なリーディング技術を適切に使えるようにする。 到達目標：コース終了までに、以下のことができるようになる。 1) まとまりのある文章を読む、または聞く場合に、その主旨を理解し、求められる情報を取り出すことができる。 2) 語彙や文法の知識やそれらを実際に使う技能を身に付ける。 3) 様々なリーディング技術を適切に使うことができる。				
授業の概要				
* 各回の授業で主に行なうことは以下のとおりである。 1) 文章の内容を予測する。 2) 文章全体の内容や主旨を理解するために読む／聞く。 3) 文脈や状況に応じた語彙及び文法の学習をする。 4) メモ取り（ノートテイキング）を行う。 5) 大学での勉強に必要な英語表現を使用する。				
授業計画				
第1回：Course Introduction 授業概要の説明				
[Speaking] Group Work 3: Making a Phone Call 電話のかけ方				
第2回：[Reading] Unit 9A: The Power of Virtual Reality (1) 文章全体の主旨の理解				
第3回：[Reading] Unit 9A: The Power of Virtual Reality (2) 文章の内容確認および語彙・文法の学習				
第4回：[Reading] Unit 9A: The Power of Virtual Reality (3) 練習問題				
第5回：[Writing] Writing an Essay (1) 英文エッセイの構成：パラグラフからエッセイへ				
第6回：[Reading Skills] スキャニングやスキミングなどのリーディング技術について				
第7回：Review 第1回～第6回授業の復習（理解の確認）				
第8回：[Reading] Unit 9B: High-Flying Helpers (1) 文章全体の主旨の理解				

第9回 : [Reading] Unit 9B: High-Flying Helpers (2) 文章の内容確認および語彙・文法の学習 第10回 : [Reading] Unit 9B: High-Flying Helpers (3) 練習問題 第11回 : [Listening] Unit 9 [Video] Drone Delivery (1) ノートテイキングと主旨の把握 第12回 : [Listening] Unit 9 [Video] Drone Delivery (2) スクリプトによる内容確認と練習問題 第13回 : [Writing] Writing an Essay (2) 英文エッセイの各構成要素 第14回 : [Listening] Power Listening リスニング力強化のために 第15回 : Review 第8回～第14回授業の復習 (理解の確認) 定期試験	
テキスト	Nancy Douglas & David Bohlke, <i>Reading Explorer</i> Book 3 [3rd Edition] (Cengage Learning)
参考書・参考資料等	Amy Hemmert & Ged O'Connell, <i>Communicating on Campus</i> (Alta Book Center Publishers)
学生に対する評価 授業内の活動・小テスト・作文課題 50% + 定期試験 50%	

授業科目名： 大学英語Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大西洋一
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、「大学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を統合的に養成することを目的とした科目である。「大学英語Ⅳ」では特に、英語のエッセイ（論理的文書）の構造を学び、その知識を英語の長文読解およびエッセイ・ライティングに活用できるようにすることを目指す。			
到達目標：コース終了までに、以下のことができるようになる。			
1) まとまりのある文章を読む、または聞く場合に、その主旨を理解し、求められる情報を取り出すことができる。			
2) 語彙や文法の知識やそれらを実際に使う技能を身に付ける。			
3) 英語の文章構造に基づいたエッセイを書くことができる。			
授業の概要			
＊各回の授業で主に行なうことは以下のとおりである。			
1) 文章の内容を予測する。			
2) 文章全体の内容や主旨を理解するために読む／聞く。			
3) 文脈や状況に応じた語彙及び文法の学習をする。			
4) メモ取り（ノートテイキング）を行う。			
5) 大学での勉強に必要な英語表現を使用する。			
授業計画			
第1回：Course Introduction 授業概要の説明			
[Speaking] Group Work 4: Asking for Information 情報を尋ねる			
第2回：[Reading] Unit 11A: Van Gogh's World (1) 文章全体の主旨の理解			
第3回：[Reading] Unit 11A: Van Gogh's World (2) 文章の内容確認および語彙・文法の学習			
第4回：[Reading] Unit 11A: Van Gogh's World (3) 練習問題			
第5回：[Writing] Writing an Essay (1) 英文エッセイにおける論理展開と「つなぎ言葉」			
第6回：[Listening] Power Listening リスニング力強化のために			
第7回：Review 第1回～第6回授業の復習（理解の確認）			
第8回：[Reading] Unit 11B: Seeing the Light (1) 文章全体の主旨の理解			

第9回 : [Reading] Unit 11B: Seeing the Light (2) 文章の内容確認および語彙・文法の学習

第10回 : [Reading] Unit 11B: Seeing the Light (3) 練習問題

第11回 : [Listening] Unit 11 [Video] The Genius of Picasso (1) ノートテイキングと主旨の把握

第12回 : [Listening] Unit 11 [Video] The Genius of Picasso (2) スクリプトによる内容確認と練習問題

第13回 : [Writing] Writing an Essay (2) 英文エッセイを書いてみる

第14回 : [Writing] Writing an Essay (3) 英文エッセイを書いてみる

第15回 : Review 第8回～第14回授業の復習 (理解の確認)

定期試験

テキスト Nancy Douglas & David Bohlke, *Reading Explorer* Book 3 [3rd Edition]
(Cengage Learning)

参考書・参考資料等 Amy Hemmert & Ged O'Connell, *Communicating on Campus*
(Alta Book Center Publishers)

学生に対する評価

授業内の活動・小テスト・作文課題 50% + 定期試験 50%

授業科目名： データサイエンスリ テラシー概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮本 律子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操 作 数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1) リベラルアーツ教育の一環としてのデータサイエンスの位置づけを理解し、その基本的知 識を身につける。			
2) データサイエンスに関連する様々な技術について理解し、現代社会を構成する市民・国民 としてふさわしい活動ができる基礎知識の習得をおこなう。			
授業の概要			
現代社会の急激な変化に伴い、大学生にはデータサイエンスの素養が求められるようになって きた。本授業では、データサイエンスの基本的な概念と原理について取り扱う。			
授業計画			
第1回 社会で起きている変化			
第2回 データ・AI利活用の最新動向			
第3回 社会で活用されているデータ			
第4回 データ・AIの活用領域			
第5回 データ・AI利活用のための技術			
第6回 データ・AI利活用の現場			
第7回 データ・AI利活用における留意事項			
第8回 データを守る上での留意事項			
テキスト			
教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ） 北川 源四郎，竹村 彰通 ， 他 講談社			
参考書・参考資料等			
データサイエンス入門 第2版（データサイエンス大系） 竹村 彰通，姫野 哲人 他 学 術図書出版社			

データサイエンス入門（岩波新書） 竹村 彰通 岩波書店

教養としてのAI講義 ビジネスパーソンも知っておくべき「人工知能」の基礎知識 メラニー
・ミッチェル 日経BP

学生に対する評価

以下の2点の総合点にて評価をおこなう。

- ・毎回の課題（小テスト）（20点）
- ・試験（80点）

授業科目名： 基礎情報学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 南 斉 俊 佑
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標				
本講義では、様々な研究領域での利活用が期待されている人工知能などの機械学習に関する基本的プログラミング技術を理解することを目的とする。				
○到達目標				
(1) Pythonのプログラム開発環境とプログラム実行手順について理解し、実行することができる。				
(2) 計算処理やアルゴリズムについて理解し、簡単なプログラムを作成することができる。				
(3) データファイルの入出力を行うプログラムを理解できる。				
(4) 外部ライブラリを用いた配列や行列の演算を理解して、基礎的なデータ解析を行うことができる。				
授業の概要				
Pythonプログラミングを通じて、プログラミングの基礎知識，データ表現，データ解析技術，データ可視化手法について学習する。コンピュータによる演習を行い，到達目標を達成できるような演習課題とレポートの提出を求め，到達度を確認する。				
授業計画				
第1回 ガイダンスおよびPythonの実行環境				
第2回 データ型と変数				
第3回 データ構造				
第4回 制御文 1（条件分岐）				
第5回 制御文 2（繰り返し処理）				
第6回 基本ライブラリ（文字列、ファイル入出力）				
第7回 NumPyライブラリ				
第8回 Matplotlibライブラリ				

テキスト

3ステップでしっかり学ぶPython入門 山田祥寛, 山田奈美 技術評論社

参考書・参考資料等

いちばんやさしいPythonの教本 人気講師が教える基礎からサーバサイド開発まで
鈴木たかのり, 杉谷弥月 インプレス

ゼロから作るDeep Learning ―Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装
斎藤康毅 オライリー・ジャパン

学生に対する評価

演習課題（60%）とレポート（40%）で判定する。総合60%以上を合格とする。

授業科目名： 基礎A I 学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 門廻 充侍	
						担当形態： 単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第6 6 条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 数理、データ活用及び人工知能に関する科目					
授業のテーマ及び到達目標							
本講義では、機械学習の基礎から始め、様々な実例を通じて機械学習を体験する。どのようにして機械学習が実社会に活用・応用されるのか、それら基本的な仕組みをコンピュータ演習（体験）と講義を通じて学ぶことを目標とする。							
授業の概要							
コンピュータによる演習（体験）を含んだ形式で機械学習の基礎に関する講義を行う。演習課題とレポートの提出を求め、到達度を確認する。							
授業計画							
第1回 ガイダンスおよび機械学習の基礎							
第2回 機械学習の流れ							
第3回 機械学習アルゴリズム							
第4回 機械学習を用いたアプリケーション①（日本語文章生成）							
第5回 機械学習を用いたアプリケーション②（手書き数字認識）							
第6回 機械学習を用いたアプリケーション③（その他）							
第7回 機械学習の活用例・応用例							
第8回 人工知能の今後とまとめ							
テキスト							
いちばんやさしいPython機械学習の教本 人気講師が教える業務で役立つ実践ノウハウ 鈴木 たかのり，降旗 洋行，平井 孝幸 インプレス							
参考書・参考資料等							
ゼロから作るDeep Learning ―Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装 斎藤 康毅 オライリー・ジャパン 基礎から学ぶ人工知能の教科書 小高 知宏 オーム社							

超AI入門	松尾 豊	NHK出版
-------	------	-------

学生に対する評価

演習課題（60％）とレポート（40％）で判定する。総合60％以上を合格とする。

授業科目名： 人間形成論Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤修司、成田龍一郎
			担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：授業の前半では、教育の理念並びに教育についての基本的な概念及びその背景にある教育の思想について、各種法令や教育観をふまえながら扱う。授業の後半では、学校教育の成り立ちや日本における教育制度・課程の歴史をたどりながら、現在の学校教育の意義を扱う。 到達目標：①教育に関わる種々の理念を、歴史的・思想的背景をもとに理解し、自らの教育理念・教育観を相対化するとともに、協同的に教育理念を形成するための基礎的な力を獲得する。 ②学校や教育の歴史を知ることにより、学生自らの人間形成の過程を理解し、種々の教育課題の分析力と解決力の基本を身に付ける。			
授業の概要			
授業の前半では、教育基本法や学校教育法などの諸法令にあらわれた教育の目的、目標を取り上げるとともに、その背景にある教育の思想や概念及び教育観について社会、政治、文化等から学習する。また、それに基づいて、教育の理念に関わる様々な教育課題について、どのように理解するか、対処していくのかを、講義するとともに、全体で討議する。授業の後半では近代公教育制度の成立の過程および日本の学校教育の成立と展開をたどることにより、現在の学校教育の歴史的背景について概観する。また、現代における様々な教育問題を取り上げ、その社会的、歴史的背景について学習する。そのことをふまえて、現代における様々な教育課題について、討議・検討する。			
授業計画			
第1回：教育の基礎概念①——「人間形成」について			
第2回：教育の基礎概念②——「教育」について			
第3回：現在の教育理念——教育基本法、学校教育法等における教育目的と教育目標			
第4回：教育の思想①——消極教育の思想的系譜とその理念			
第5回：教育の思想②——積極教育の思想的系譜とその理念			
第6回：教育の思想③——多様な教育観に具わる共通性			
第7回：教育の基礎概念③——「学校」について——			
第8回：近代学校の誕生と教育の独占化①——「学校」の誕生とその背景			
第9回：近代学校の誕生と教育の独占化②——「学校」による教育の独占化			
第10回：学校の理念と歴史①——明治期から昭和初期			
第11回：学校の理念と歴史②——戦後改革期から高度経済成長期			

第12回：学校の理念と歴史③——高度成長期以降から1990年代

第13回：学校の理念と歴史④——1990年代から現在

第14回：人間にとっての教育の意義①——さまざまな人間形成と「学び」の機能——

第15回：人間にとっての教育の意義②——「教えること」と「公」の教育——

第16回：試験

テキスト

学習指導要領（最新版）、中教審答申、紺野祐・走井洋一・小池孝範・清多英羽・奥井現理『教育の現在——子ども・教育・学校をみつめなおす』（改訂版）学術出版会

斉藤他編『近現代教育史』学文社、古川他編『教育用語ハンドブック』一莖書房

参考書・参考資料等

授業内容に即して適宜紹介する。

学生に対する評価

履修カード・授業レポート（30%）、読書レポート（30%）、最終試験（40%）

授業科目名：教育原論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤修司
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教えることや学ぶことなど、「教育」に関わる歴史的・思想的な内容を扱う。教育の理念を掘り下げて、過去から現在に至る変遷を整理しながら、現代の教育のあり方を見つめ直し、今後の教育のあり方について考えていく。			
到達目標：①教育に関する思想や歴史等をふまえ、教育の理念について説明することができる。			
②学校や教育の歴史を知ることにより、学生自らの人間形成の過程を理解し、種々の教育課題の分析力と解決力の基本を身に付ける。			
授業の概要			
「教育の基礎概念」（第2～3回）と「教育の思想」（第4～5回）を押さえたあと、「西洋教育史」（第6～8回）と「日本教育史」（第9～14回）についてそれぞれの歴史・思想のあり方をひとつずつ押さえていく。各時代に登場した主要な思想家の考えも交えながら、どのようにして「教育」という営みが思考され、現実のものとされてきたのかを明らかにし、現代の、そして今後の「教育」のあり方について討議・検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション——「教育原論」とは			
第2回：教育の基礎概念(1)——「教育」とは何か			
第3回：教育の基礎概念(2)——「学校」とは何か			
第4回：教育の思想(1)——アヴェロンの野生児			
第5回：教育の思想(2)——認知発達とは何か			
第6回：西洋教育史(1)——古代の教育思想・学校の誕生			
第7回：西洋教育史(2)——子どもの誕生と公教育			
第8回：西洋教育史(3)——多様な教育思想の交差			
第9回：日本教育史(1)——前近代			
第10回：日本教育史(2)——近代以降			
第11回：日本教育史(3)——敗戦～戦後教育改革			
第12回：日本教育史(4)——1960年代～1970年代（高度経済成長と逆コース）			
第13回：日本教育史(5)——1980年代（校内暴力といじめ・不登校）			
第14回：日本教育史(6)——1990年代（バブル崩壊とゆとり教育）			

第15回：現代教育の最前線——「教えること」と「公」の教育

第16回：試験

テキスト

学習指導要領（最新版）、中教審答申、

神代健彦・後藤篤・横井夏子（2023）『これからの教育学』有斐閣

岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大（2020）『問いからはじめる教育史』有斐閣

参考書・参考資料等

授業内容に即して適宜紹介する。

学生に対する評価

授業レポート：30%

最終試験：70%

授業科目名： 教職入門Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田仲誠祐、細川和仁 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
・テーマ：教職の意義、教員の役割、職務内容に関する理解を深めさせることで、中学校・高等学校等の教員を志願する者に教職に対する自らの適性を考察させ、教職への意欲や一体感の形成を促す。			
・到達目標			
(1) 中学校・高等学校等の教員を志願する者に理想とする教員像が明確になる。			
(2) その実現のための履修計画を立てることができる。			
(3) 教職に就くことについて多角的に考察することができる。			
(4) 学校内外の専門家等と連携・協働し、諸課題にチームとして取り組む必要性を理解する。			
(5) 教職の実体験の機会を通じて、教職への意欲・適性等を熟考し、進路選択を行うことができる。			
授業の概要			
「教職入門」は、これから教職科目を受講していく際の基礎となるもので、現職教員や学校管理職等による多角的な講義（講話）に加え、中学校・高等学校等での観察実習およびグループ討議等の演習を取り入れた内容としている。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション——本授業の概要と計画			
第2回：教職に就くということ——実務家教員・先輩による講話（研修、服務及び身分保障を含めて）			
第3回：グループ討議①：教職への意欲と自身の教育体験			
第4回：教職の職務の実際①——講話：附属中学校等での実践・組織的運営を中心に（チーム学校としての運営を含む）			
第5回：教職の職務の実際②——講話：附属特別支援学校中学部・高等部等の実践・組織的運営を中心に（チーム学校としての運営を含む）			
第6回：教職の職務の実際③——講話：公立高等学校等での実践・組織的運営を中心に（チーム学校としての運営を含む）			
第7回：教師になった先輩たちが学んできたこと——講話：公立中学校等の新任教員の実践を中心に			
第8回：学校園訪問事前指導——観察実習で何をどう学ぶか			
第9回～第13回：附属中学校・公立高等学校等での観察実習（2校）			
第14回：グループ討議②——中学校・高等学校等での教職の魅力・おもしろさとは何か？			

第15回：全体のまとめ——グループ討議②の報告から
テキスト
・『中学校学習指導要領』，『高等学校学習指導要領』，『特別支援学校教育要領・学習指導要領』（全て最新版）
・秋田大学教育文化学部編『教職ポートフォリオ(1)』（必ず当該年度のものをを使用すること）
参考書・参考資料等
授業の進行にあわせて適宜，指示する。
学生に対する評価
授業中の課題および学校園訪問・観察実習のレポート（50％）、ならびに最終レポート（50％）によって評価する。全ての授業への出席を前提とする。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細川和仁、野村駿
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教職の意義、教員の役割、職務内容に関する理解を深めさせることで、中学校・高等学校の教員を志願する者に教職に対する自らの適性を考察させ、教職への意欲や一体感の形成を促す。			
到達目標：①中学校・高等学校の教員を志願する者に理想とする教員像が明確になる。②教職に就くことについて多角的に考察することができる。③学校内外の専門家等と連携・協働し、諸課題にチームとして取り組む必要性を理解する。			
授業の概要			
「教職の意義」（2～3回）、「教師の役割」（4～5回）、「教師の職務内容」（6～9回）、「教師の現代的課題」（10～14回）の4つのパートから構成し、教職及び教師に関する多様な見方・考え方を育成する。本授業がこれからの教職科目の基礎となるため、さまざまなデータや資料を提示しながら、さまざまな角度から教職および教師について考えることができる授業を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション——教師を取り巻く状況（担当：細川・野村）			
第2回：教職の意義(1)——教職の社会的意義と変化（担当：野村）			
第3回：教師の意義(2)——教師の専門性／教職の専門職性（担当：野村）			
第4回：教師の役割(1)——教師の主な役割と生涯発達（担当：細川）			
第5回：教師の役割(2)——教師に求められる資質能力（担当：細川）			
第6回：教師の職務内容(1)——学習指導、道德教育、キャリア教育（担当：細川）			
第7回：教師の職務内容(2)——生徒指導、いじめ・不登校対応（担当：細川）			
第8回：教師の職務内容(3)——学級・学年・学校経営と校務分掌（担当：野村）			
第9回：教師の職務内容(4)——多様な児童生徒の理解と特別支援教育（担当：細川）			
第10回：教師の現代的課題(1)——教師の服務規程と不祥事問題（担当：野村）			
第11回：教師の現代的課題(2)——多忙感・ストレスと働き方改革（担当：野村）			
第12回：教師の現代的課題(3)——「チーム学校」「チームとしての学校」（担当：野村）			
第13回：教師の現代的課題(4)——開かれた学校づくりと保護者・地域住民との連携 （担当：細川）			

第14回：教師の現代的課題(5)——「令和の日本型学校教育」と教師の養成・採用・研修
(担当：野村)

第15回：これからの教師——学び続ける教師像へ(担当：細川・野村)

第16回：試験(担当：細川・野村)

テキスト

学習指導要領(最新版)、中教審答申、

佐久間亜紀・佐伯胖編(2019)『現代の教師論』ミネルヴァ書房

石村卓也・伊藤朋子(2021)『新・教師論—チーム学校に求められる教師の役割と職務』晃洋書房

参考書・参考資料等

授業内容に即して適宜紹介する。

学生に対する評価

授業レポート：30%

最終試験：70%

授業科目名： 教育経営論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤修司 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：中等教育を中心に、教育に関わる条約や憲法、各種法令・答申・政策を踏まえて、明治期から現在までの教育経営の歴史的変遷、現状と課題、学校と地域との連携や種々の学校安全・危機管理を扱う。			
到達目標：中等教育を中心に、教育経営に関する基礎的な知識を獲得し、経営的課題に関する理解力を身に付ける。			
授業の概要			
中等教育を中心に、学校や中央・地方の教育行政機関の機構や機能、財政、職員について取り上げながら、その背景にある社会・政治・経済状況との関わりについて学習する。そのことを踏まえて、教育の経営に関わる様々な教育課題について、どのような理解し、解決していくのか、調査・討議・発表などを交えて学習する。			
授業計画			
第1回：教育経営をめぐる基本概念			
第2回：教育経営をめぐる法体制：学制、教育勅語、軍国主義教育			
第3回：教育経営をめぐる法体制：戦後教育改革、高度経済成長期			
第4回：教育経営をめぐる法体制：臨教審、新教育基本法以降			
第5回：教育経営に関わる行政機関：国会・内閣・文部科学省			
第6回：教育経営に関わる行政機関：自治体首長部局・教育委員会			
第7回：学校経営の機能と組織：校長のリーダーシップ、教職員組織			
第8回：学校経営の機能と組織：学校の教育課程経営と評価			
第9回：学校経営と地域連携：コミュニティスクール、PTA等			
第10回：学校経営と地域連携：開かれた学校づくりの実際			
第11回：学級経営の機能と実際：学級経営の理論と歴史			
第12回：学級経営の機能と実際：学習指導と生活指導の成果と課題			
第13回：学校安全と危機管理：学校安全や危機管理の実情			
第14回：学校安全と危機管理：自然災害等への対応			
第15回：学校安全と危機管理：人為災害等への対応			
最終試験			
テキスト			
学習指導要領（最新版）、中教審答申等			
参考書・参考資料等			
植野他編『現代教育法』日本評論社、古川他編『教育用語ハンドブック』一莖書房			

学生に対する評価

履修カード（30％）、課題レポート（30％）、試験（40％）

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村駿
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1）教育社会学の基本的な概念や理論を説明できる。			
2）社会の中の教育を取り巻く事象について、「常識」を疑う姿勢を持ち、多面的に論じることができる。			
3）資料を適切に分析・解釈し、客観的に論じることができる。			
授業の概要			
本講義では、現代社会を特徴づける社会的な営みである教育について、その制度や役割、教育を取り巻くさまざまな事象を取り扱い、これらを読み解くために必要な教育社会学の基本概念・理論を学ぶ。			
また、教育問題や現象について、あるべき理想像を考えるのではなく、その構造やメカニズムを解明する学問であるという教育社会学の性質に照らし、これまでの「常識」を疑う姿勢を持ち、多面的・客観的に論じられるようになることを目指す。			
その際、学んだ知識に加え、データや資料の適切な分析・解釈を通じた経験科学的な議論ができるようになることも重視する。よって講義内では、基本的な知識の獲得だけでなく、昨今の教育問題・教育現象について、ディスカッションやグループワークを通じ、議論の中で考察を深めていく。			
授業計画			
第1回：教育社会学とは / 学校の制度と社会的機能			
第2回：学力と階層			
第3回：高等教育の社会学			
第4回：子どもの貧困			
第5回：いじめ			
第6回：非行・少年犯罪			
第7回：学校と家庭・家族			
第8回：不登校児童・生徒と地域連携教育			
第9回：ジェンダー			
第10回：エスニシティと教育			
第11回：教師の専門性と働き方			
第12回：開かれた学校づくり・PTAとの関わり			

第13回：地域と連携したキャリア教育

第14回：子どもの安全・リスクと「教育」

第15回：少子高齢化と教育改革 / 最終試験

テキスト

なし（講義の中で適宜資料を配布する）

参考書・参考資料等

広田照幸・伊藤茂樹、2010、『教育問題はなぜまちがって語られるのか―「わかったつもり」からの脱却』日本図書センター

中村高康・松岡亮二編、2021、『現場で使える教育社会学―教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房

相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子、2023、『これからの教育社会学』有斐閣

学生に対する評価

最終試験（80%）：講義内容の理解に加え、獲得した知識を活用し、提示された教育問題や社会課題について、多面的・客観的に論じられるかどうかを評価する。

授業への参加態度（20%）：グループディスカッションにおける議論、授業への積極的参加を評価対象とする。

授業科目名： 教授・学習の心理学（学習・言語心理学）Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中野良樹 担当形態：単独
科 目	教育の基礎理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
学習心理学や教育心理学をもとに、児童・生徒の学習に関する基礎的な理論や知識を修得する。そのうえで、各発達段階の子どもの特徴を踏まえ、児童・生徒が主体的に取り組める指導法や授業実践について学ぶ。そうした理解を踏まえて、自身が学校現場で授業を行う際に、独自の授業案を考える力を養う。			
到達目標			
1）教育心理学や学習心理学の分野から、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。			
2）主体的学習を促す授業づくりや集団学習の在り方について、各発達段階の特徴と関連付けて理解し、実際の授業案を考えることができる。			
3）主体的な学習活動を支える基礎となる理論や考え方を、各発達段階における学習上の課題等を踏まえて理解している。			
授業の概要			
授業の目的について形式陶冶と実質陶冶という古典的な議論をふまえ、授業を通して知識を体系化し獲得する意義とその過程について学ぶとともに、近年、学校現場でも導入が進められている問題解決型授業について考える。後半では、児童・生徒の学力について、教育心理学の基礎的知識と近年行われた諸種の調査データから学ぶ。最後に、本授業をモデルとして教育評価の手続きを演習形式で修得する。			
授業計画			
第1回：授業の目的 ― 形式陶冶と実質陶冶			
第2回：記憶学習と発達（1）…意味記憶の定着 と主体的な学び			
第3回：記憶学習と発達（2）…エピソード記憶―体験による「主体的な学び」の促進			
第4回：記憶から知識への学習 …「深い学び」の発達			
第5回：知識の獲得・・・宣言的知識の体系化―知識つながりが生む「深い学び」			
第6回：スキルの獲得・・・手続き的知識の獲得―児童の「わかる」と「できる」の違い			
第7回：概念とスキルの対応づけ教授による「深い学び」			
第8回：知識の獲得を促す教授法（1）―知識の体系化と法則知識			

第9回：知識の獲得を促す教授法（2）－有意味学習によるスキーマの形成

第10回：知識の獲得から問題解決へ…知識の活用と授業実践

第11回：問題解決に必要な思考発達(1)－論理的思考力

第12回：問題解決に必要な思考発達(2)－創造的思考力

第13回：問題解決に必要な思考発達(3)－批判的思考力

第14回：これからの学力と教育評価を考える- PISA型読解力と活用力

第15回：目標準拠評価の手続き－観点別評価からルーブリックの設定まで

講義日程完了後に定期試験を実施する

テキスト

参考書・参考資料等

『認知心理学者教育を語る』 若き認知心理学者の会（北大路書房） 『教育評価』 梶田
 叡一（有斐閣社） 中学校学習指導要領（最新版）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業時間中に実施する4～6回のレポート（60%）と試験結果（40%）を総合して評価する。

授業科目名：特別な教育的ニーズの理解とその支援Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：藤井慶博、鈴木徹 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
① 共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システムの構築を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。			
② 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性および心身の発達の特徴を理解する。			
③ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育の場とその支援の内容・方法を理解する。			
④ 今後、学校教育に求められる教育相談や合理的配慮、関係機関との連携、交流及び共同学習に関する基礎的事項を理解する。			
授業の概要			
はじめに我が国の障害児教育の歴史を概括したうえで、「障害者の権利に関する条約」等インクルーシブ教育が推進されるに至った背景や国内外の動向について学ぶ。そのうえで、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（母国語や貧困等の教育的ニーズを含む）の支援の内容・方法について学び、その学びをもとに特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の教育課程や具体的な支援について学ぶ。また、発達障害や軽度知的障害の児童等が多く在籍している通常の学級での支援の在り方について学ぶ。さらに、「交流及び共同学習」の推進や「特別支援教育に関する校内委員会」の設置、「特別支援教育コーディネーター」「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等、特別支援教育を推進するための支援体制整備と関係機関との連携の在り方について学ぶ。これらをもとに、今後共生社会の形成に向け、学校教育の果たす役割と内容について学びまとめとする。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムの構築（担当：藤井）			
第2回：障害者差別解消法と学校教育の諸問題の理解・対応（母国語や貧困等の教育的ニーズを含む）（担当：藤井）			
第3回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（1）LD、ADHD（担当：鈴木）			
第4回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（2）ASD、軽度知的障害（担当：鈴木）			
第5回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（3）知的障害（担当：鈴木）			
第6回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（4）肢体不自由			

(担当：鈴木) 第7回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（5）病弱・身体虚弱 (担当：藤井) 第8回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（6）視覚障害（担当：藤井） 第9回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（7）聴覚障害（担当：藤井） 第10回：特別支援学校における教育課程と支援（担当：藤井） 第11回：特別支援学級及び通級による指導における教育課程（自立活動の指導含）と支援（担当：藤井） 第12回：通常の学級における自立活動の目標・内容等を踏まえた指導（授業のユニバーサルデザイン含む）（担当：藤井） 第13回：交流及び共同学習の推進と心のバリアフリー（担当：藤井） 第14回：特別支援教育を推進するための支援体制整備と関係機関との連携（担当：藤井） 第15回：共生社会の形成に向けた学校教育の果たす役割と内容（担当：藤井）
テキスト なし
参考書・参考資料等 ○中央教育審議会初等中等教育分科会(2012)「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」 ○授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 レポート試験（80%）、演習の発表内容（20%）

授業科目名： 教育課程論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：細川和仁， 田仲 誠祐
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラムマネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ「教育課程の編成方法を理論的・実践的に学ぶ」			
教育課程に関する基礎的事項を学ぶことを目的とし，わが国における教育内容，系統性を規定する学習指導要領や，単元計画，教材開発の方法論を理解することを目指す。			
到達目標 1）カリキュラムに関する基礎的事項を理解する。			
到達目標 2）学習指導要領や各教科の教科書を分析する方法論を修得する。			
到達目標 3）単元計画や教材開発の方法論を理解する。			
授業の概要			
学習指導要領の背景にある歴史的，社会的背景，学校で使用されている教科書や単元計画の分析，目に見えるカリキュラム，見えないカリキュラム，授業設計等の実践活動について取り扱い，学校教育の機能について考察する。			
授業計画			
第1回： カリキュラムとは何か（担当：細川・田仲）			
第2回： 学力論：学校で身につけさせたい能力を考える（担当：田仲）			
第3回： 学習指導要領の変遷と今後の展開（担当：細川）			
第4回： 学校を基盤としたカリキュラム開発：PDCAとカリキュラムマネジメント（担当：田仲）			
第5回： 目標分析と学習評価（担当：細川）			
第6回： 隠れたカリキュラム（担当：細川）			
第7回： カリキュラムのつながりへの着目－移行，入試，接続－（担当：田仲）			
第8回： 今後の学校に求められるカリキュラムマネジメント・マインド（担当：細川・田仲）			
テキスト			
田中耕治編『よくわかる教育課程（第2版）』ミネルヴァ書房，2018年			
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』（最新版）			
参考書・参考資料等 適宜，指示する。			
学生に対する評価			
次の3つの課題に配点し，合計点によって評価する。			
(1)単元開発等の中間課題（30％），(2)毎時間記入するリフレクション・ノート（30％），			
(3)最終レポート（40％）			

授業科目名： 道徳教育論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小池孝範、成田龍一郎
				担当形態：オムニバス
科 目		道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ				
【到達目標】				
①道徳に関する諸理論を踏まえて道徳とは何かという問いに主体的かつ批判的に考察することができる。				
②道徳教育の歴史、子どもの発達、現代社会の課題に照らして道徳教育の意義を主体的かつ批判的に考察することができる。				
③以上の考察を踏まえて道徳に関する教育実践のPDCAを回すことができる。				
【テーマ】				
道徳教育の基礎となる思想や歴史的経緯を踏まえ、学校教育における道徳教育の意義と役割を理解し、適切な道徳教育に関する教育実践を行う能力を身に付ける。				
授業の概要				
世界や社会の変動によって道徳それ自体が変化しているように見える。そのような中で道徳教育はどのような役割を持つのであろうか。道徳及び道徳教育をめぐる諸理論を検討することで、多様な視点から道徳教育の意義やあり方について批判的に考察する。				
授業計画				
第1回 オリエンテーション 道徳教育の射程（担当：小池・成田）				
第2回 道徳教育の歴史と現代的課題（担当：成田）				
第3回 道徳とは何か① 規範倫理学（担当：成田）				
第4回 道徳とは何か② メタ倫理学（担当：成田）				
第5回 道徳とは何か③ 正義論（担当：成田）				
第6回 道徳性の発達理論① シュティルナー、ニーチェ、ポスト構造主義（担当：成田）				
第7回 道徳性の発達理論② ケアの倫理（担当：成田）				
第8回 子どもと社会① 逸脱をめぐる理論～いじめ、非行、虐待等～（担当：小池・成田）				
第9回 子どもと社会② 情報消費社会をめぐる理論（担当：小池・成田）				
第10回：道徳教育の実践① 道徳教育の目標及び内容指導案の作成（担当：小池）				
第11回：道徳教育の実践② 指導案の作成（担当：小池）				
第12回：道徳教育の実践③ 授業形式の検討～講義、ディスカッション、アクティブラーニング～（担当：小池）				
第13回：道徳教育の実践④ 模擬授業の構想（担当：小池）				
第14回：道徳教育の実践⑤ 模擬授業の実施と評価（担当：小池）				
第15回：本講義のまとめ 道徳教育の今後（担当：小池・成田）				
テキスト 特になし				
参考書・参考資料等				
『学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説 総則編』、『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 その他の参考書については授業時に適宜指示する。				
学生に対する評価				
学期末レポート（60％）、授業期間中の小レポート（40％）の割合で評価する。				

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：細川 和仁
総合的な学習の時間Ⅱ	必修科目	1 単位	担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
授業のテーマ「探究活動を基盤とした教科横断的な学習のデザイン」			
到達目標 1）総合的な学習・探究の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。			
到達目標 2）総合的な学習・探究の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。			
授業の概要			
総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習・探究を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。			
授業計画			
第1回： 中学校・高等学校における総合の時間の成立の経緯			
第2回： 学校を基盤としたカリキュラム開発			
第3回： 探究的な学習のプロセスと深い学び			
第4回： 実践事例の調査と共有（「総合」の強みとは）			
第5回： トピック学習，クロスカリキュラーテーマ			
第6回： 総合的な学習・探究の評価とポートフォリオ評価			
第7回： 総合的な学習・探究の単元計画の作成，発表			
第8回： カリキュラムマネジメントと総合学習			
テキスト			
・田代高章・阿部昇編『「生きる力」を育む 総合的な学習の時間 副題：自己創造・社会創造へつながる理論と実践』，福村出版，2021年			
・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（最新版）			
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（最新版）			
参考書・参考資料等			
授業の進行にあわせて適宜，指示する。			
学生に対する評価			

次の3つの活動の配点し、その合計によって評価する。

(1)実践事例の調査等の中間課題（30%），(2)毎時間記入するリフレクション・ノート（30%），(3)最終レポート（40%）

授業科目名： 特別活動論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤原 靖浩
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業のねらいは、特別活動に関する理解を深め、実践的指導力を身につけることである。具体的な到達目標は次の通りである。			
(１) 中・高等学校教育における特別活動の意義・目標及び内容について説明することができる。			
(２) 学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事における指導・支援の留意点について説明することができる。			
(３) 特別活動における具体的な指導・支援のあり方について自分なりに工夫することができる。			
授業の概要			
本授業では、中・高等学校教育における特別活動の意義や目標、各教科等との関係について扱い、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な基礎的知識を広げる。さらに、学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事および教育課程外の部活動それぞれの特色について取り上げ、特別活動の実践的指導力を養う。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー特別活動とは何か			
第2回：特別活動の意義と目標			
第3回：特別活動と各教科の関わり			
第4回：特別活動の内容と指導のあり方①ー学級活動・ホームルーム活動と合意形成に向けた話し合い活動			
第5回：特別活動の内容と指導のあり方②ー生徒会活動の特質			
第6回：特別活動の内容と指導のあり方③ー学校行事の特質および教育課程外の部活動			
第7回：特別活動における家庭・地域・関係機関との連携			
第8回：特別活動の指導と評価・改善活動のあり方ー中・高等学校の実践事例から理解するー			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
・ 中園大三郎編著『21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践』			

(学術研究出版、2018年)

- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』(東山書房、2019年)
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編』(東京書籍、2019年)

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内での発表、小レポート(40%)、レポート試験(60%)

授業科目名： 教育方法技術論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：細川 和仁 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ			
授業のテーマ「目的，目標に応じた教育の方法」			
学校教育の目的に応じた学習を成立させるための，特に授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法，メディアなどの理論と実践に関する基礎的な能力を身につける。また，国内外の教育方法に関する諸理論・実践記録を通して，これからの教師に求められる資質・力量について理解する。			
授業の概要			
授業を設計・実施・評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし，わかりやすい授業を設計する方法論，授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法（ティームティーチングや習熟度別学習等），学力向上に向けた取り組み，教育メディア等に関する国内外の諸理論や実践記録を検討することを通して，教えるための方法や技術について考える。また，学習指導案の作成及び模擬授業を行い，教師として授業を行う基礎的な知識や技術を習得する。			
授業計画			
第1回： 深い学びを実現する授業をつくるということの意義			
第2回： 教材とメディアの活用：主体的・対話的な学びを促す教材づくり			
第3回： 多様な学習環境の創造：I C Tの活用			
第4回： 子どもの思考過程を理解し評価に生かす			
第5回： 授業の記録とその読解			
第6回： 授業のスキル：発問，指示，説明			
第7回： 授業実施のわざ：教室におけるコミュニケーション			
第8回： 整合性のとれた指導案と学習評価基準の作成			
テキスト			
・生田孝至他編『未来を拓く教師のわざ』一莖書房			
参考書・参考資料等			
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』（最新版）			
学生に対する評価			
次の3つの活動に配点し，その合計点によって評価する。			
(1)指導案作成等の中間課題（30%），(2)毎時間記入するリフレクション・ノート（30%），(3)最終レポート（40%）			

授業科目名：ICT活用教育実践論Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：林良雄
			担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・情報通信教育を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業においては、以下の3つを到達目標とする。			
1) 教育におけるICT活用の意義と理論を理解する。（知識面）			
2) 電子黒板・タブレット端末・プログラミングなど、ICTを利用した学習指導が遂行できる力を育成する。（技能面）			
3) ICT活用を通して、児童・生徒の情報活用能力を育成しようとする姿勢。（態度面）			
授業の概要			
教育活動においてICTを活用することは、現在の教員にとって必須の業務であると考えられる。本授業では情報機器を学校教育に利用することを通して、今後ますます進展する情報化社会に対応する学校や教師について考える。			
授業計画			
情報教育の基礎			
第1回：ICT活用とその意義－個別最適な学びとインクルーシブ教育－			
第2回：学習指導の観点からみたタブレット端末－協働学習を目指して－			
第3回：eラーニングとICT環境の整備及び外部機関との連携の在り方			
第4回：プログラミング教育			
情報教育の技能			
第5回：電子黒板とICT－各教科での横断的な利用法－			
第6回：プログラミング教育と校務支援システムの利用（課題提出）			
情報教育に関する態度			
第7回：ICTを活用した教材開発と授業実践			
第8回：情報モラルと情報セキュリティ（課題提出）			
テキスト 講義内容に沿った資料を、毎回配布する。			
参考書・参考資料等：文部科学省『学習指導要領解説 総則編』（最新版）			
学生に対する評価：課題提出のない回は、レポート(60%)を課す。また2回の課題提出(40%)を課す。			

授業科目名：生徒・進路指導の理論と方法 II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 綾部直子、野村駿 担当形態： オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関連機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めてゆくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。			
【到達目標】			
1) 生徒指導の意義や原理を理解し説明できる。			
2) 児童期の特徴および心理学的諸問題について説明できる。			
3) 学校教育現場の構造、特質を理解し、児童の心理的諸問題への対応について考察できる。			
4) 変化の速度を増す社会にあって、「生きる力」としての「確かな学力」の確立を図るための生徒指導の教育的意義について説明できる。			
5) キャリア形成指導と生徒指導の関連について説明できる。			
授業の概要			
近年、子どもを取り巻く社会環境の急激な変化とともに、学校教育現場では、かつて体験しなかった様々な問題に直面し、新たな対応を求められることとなった。そこで、児童・青年期に関する発達心理学および臨床心理学の基本的知識の理解を深め、さらに学校と家庭、学校と地域社会をはじめとした社会における学校教育の果たす役割、とりわけ「生きる力」との関連において生徒指導の教育的意義を検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、生徒指導の意義と原理（担当：綾部・野村） 第2回：学校における生徒指導体制と生徒指導の進め方（担当：綾部）			
第3回：児童・青年期の諸問題の現状と対応　―暴力行為・いじめ―（担当：綾部）			
第4回：児童・青年期の諸問題の現状と対応　―自殺・不登校―（担当：綾部）			
第5回：児童・青年期の諸問題の現状と対応　―性・SNS・薬物乱用・児童虐待等―（担当：綾部）			
第6回：児童・青年期にみられる精神疾患　―発達障害（神経発達症群）―（担当：綾部）			
第7回：児童・青年期にみられる精神疾患　―統合失調症・不安症・抑うつ障害・睡眠問題等―（担当：綾部）			

第8回：教育相談の意義と役割（担当：綾部）

第9回：教育相談の実際、カウンセリングの基本的応答技法（担当：綾部）

第10回：生徒指導に係る法制度、安全教育（担当：綾部）

第11回：進路指導・キャリア教育の意義と原理（担当：野村）

第12回：進路指導・キャリア教育の進め方（担当：野村）

第13回：進路指導・キャリア教育の実際（担当：野村）

第14回：生徒指導・進路指導の実際（担当：綾部・野村）

第15回：生徒指導・進路指導と家庭・地域・関係機関との連携（担当：綾部・野村）

第16回：定期試験（担当：綾部・野村）

テキスト

「生徒指導提要（改訂版）」 「学習指導要領」 文部科学省

参考書・参考資料等

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」 文部科学省

「生徒指導リーフ」 国立教育政策研究所

「図で理解する生徒指導・教育相談」 佐々木雄二・笠井仁編著 福村出版

その他、授業の中で適宜、紹介する

学生に対する評価

最終課題レポート50%、小課題30%、授業への貢献度・意欲・関心20%を総合して評価する。

授業科目名：生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村駿、綾部直子
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：生徒指導および進路指導・キャリア教育に関する内容を包括的に扱う。他の教職科目との関係も意識しながら、教職における両指導がどのような意味・役割を有しているのかを理解し、学校現場で実際に取り組むにあたって必要な知識・技能、および素養を涵養する。その際、関連する資料や図表・データを正確に読み取り、問題解決にまで導ける構想力を重視する。			
到達目標：①生徒指導に関する理論的・歴史的内容を理解するとともに、個別具体的な問題を通して、生徒指導を実践する際に必要な知識・技能を身に付ける。②進路指導・キャリア教育に関する理論的・歴史的内容を理解するとともに、個別具体的な問題を通して、進路指導・キャリア教育を実践する際に必要な知識・技能を身に付ける。③生徒指導および進路指導・キャリア教育に関するさまざまな資料や図表・データを正確に読み取り、対応策を具体的に構想できる。			
授業の概要			
第1～2回で導入を行い、生徒指導および進路指導・キャリア教育の概略を掴む。			
授業の前半（第3～8回）は生徒指導について、後半（第9～14回）は進路指導・キャリア教育について扱い、それぞれ理論的・歴史的内容を説明した後、個別具体的な問題を取り上げながら、必要な知識・技能と素養を身に付けられるに構成する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション——生徒指導／進路指導・キャリア教育が求められる背景とは？（担当：野村・綾部）			
第2回：教職全体における生徒指導／進路指導・キャリア教育の位置づけ（担当：野村・綾部）			
第3回：生徒指導の意義と原理(1)——生徒指導の歴史と役割（担当：綾部）			
第4回：生徒指導の意義と原理(2)——生徒指導と教育課程（担当：綾部）			
第5回：生徒指導の意義と原理(3)——生徒指導の方法（担当：綾部）			
第6回：生徒指導の個別問題(1)——いじめ・不登校（担当：綾部）			
第7回：生徒指導の個別問題(2)——校則・懲戒・体罰等（担当：綾部）			
第8回：生徒指導の個別問題(3)——非行少年と逸脱行為への対応（担当：綾部）			

第9回：進路指導・キャリア教育の意義と原理(1)——進路指導・キャリア教育の歴史と役割（担当：野村）

第10回：進路指導・キャリア教育の意義と原理(2)——進路指導・キャリア教育と教育課程（担当：野村）

第11回：進路指導・キャリア教育の意義と原理(3)——進路指導・キャリア教育の方法（担当：野村）

第12回：進路指導・キャリア教育の個別問題(1)——日本型雇用システムと学校経由の就職（担当：野村）

第13回：進路指導・キャリア教育の個別問題(2)——フリーター／ニート（担当：野村）

第14回：進路指導・キャリア教育の個別問題(3)——キャリアと社会的自立（担当：野村）

第15回：これから求められる生徒指導／進路指導・キャリア教育を展望する（担当：野村・綾部）

第16回：試験（担当：野村・綾部）

テキスト

生徒指導提要（最新版）、中教審答申、

林尚示・伊藤秀樹編（2018）『生徒指導・進路指導—理論と方法』学文社。

春日井敏之・山岡雅博編（2019）『生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房。

参考書・参考資料等

授業内容に即して適宜紹介する。

学生に対する評価

授業レポート：30%

最終試験：70%

授業科目名： 教育相談の理論と方法 （健康・医療心理学） II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北島正人 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
到達目標： 幼児期と連続性をもつ児童期および青年期に主眼を置き、当該の発達期における発達や心理的健康に関わる問題について、子どもの問題だけではなく保護者や教師、学校、地域社会といった環境との相互関係も含めて検討する。これらを基礎として実際に生じる問題の背景理解とそれに対する相談対応力を涵養する。			
テーマ：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の背景理解及び方法論。			
授業の概要			
児童期・青年期の発達に主眼を置いた発達モデル、それと関連する障害、保護者・教師のかかわる問題、および教師のメンタルヘルスについて取り上げ、その対応について考える。			
授業計画			
第1回：発達モデルと発達理論			
第2回：児童期・青年期に見られる障がいと疾患の理解			
第3回：児童期・青年期に見られるところとからだの不調（1）状態理解に向けて			
第4回：児童期・青年期に見られるところとからだの不調（2）心理的問題と精神疾患			
第5回：児童期・青年期に見られる行動の問題（学校不適応 いじめ 不登校）への対応			
第6回：児童期・青年期にかかわるセクシュアリティ：性の発達 性と性別			
第7回：性にまつわる問題（性的虐待・性的暴力等）の被害への対応：学校ができること			
第8回：保護者の抱える問題（ドメスティック・バイオレンス等）の影響の表現形			
第9回：家庭内ストレス（介護・看護の必要な家庭、ひとり親家庭）の影響の表現形			
第10回：教師のメンタルヘルス：学校ストレスと臨床心理学的ストレス・ケア			
第11回：体罰といじめについて考える：集団力動の観点から			
第12回：学校と他機関連携（1）児童虐待 と児童相談所・警察			
第13回：学校と他機関連携（2）疾患と医療			
第14回：学校内資源の活用 学校と地域資源との連携			
第15回：第1～14回で取り上げた教育相談テーマと臨床心理学的スキル（カウンセリング等）の応用について			
定期試験			

テキスト
「調べる・学ぶ・考える 教育相談テキストブッケー学校で出会う問題とその対応ー」 森慶輔・宮下敏恵 編著 2021 金子書房
参考書・参考資料等
「子ども おとな 社会」高田知恵子編著 2010 北樹出版
学生に対する評価
授業中の取り組み状況（受講への取り組み，振り返りシート等）：20%、レポートまたは試験（80%）で評価する。レポートは授業期間中に提出すること。

シラバス：教職実践演習（中・高）

シラバス：教職実践演習（中・高）			単位数：2単位		担当教員名：野村駿	
科 目	教育実践に関する科目					
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○	
受講者数 50 人						
教員の連携・協力体制						
第3・4・8・9・10回では、実務経験のある教員による講話を含める。そして、実践的指導力として、教師に求められる資質能力を確認するとともに、自身の教育実習経験を振り返り、適切な省察を促すとともに、現状の自身の課題を明確にする。						
授業のテーマ及び到達目標						
テーマ：教育実習を終えた学生を対象にして、教職課程全体の履修を通じて、「教員としての資質能力」を確実に身につけることを目的とする。						
到達目標：						
(1)「教師に求められる資質能力」を理解できる。						
(2)「教師に求められる資質能力」として、使命感や責任観、教育的愛情はもちろん、①地球的視野に立って行動するための資質能力、②変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力、③教員の職務から必然に求められる資質能力等を理解できる。						
(3)「実践的指導力」を身につけることができる。						
授業の概要						
教育実習を終えた学生を対象に、履修カルテを各自参照しながら教職課程全体を振り返り、現段階の自己の実践的指導力の到達点と課題を確認し、今後も専門職として絶えざる研鑽が重要となることを押さえる。とりわけ、教育実習の経験のうち、「学習指導」「生徒指導」「進路指導」「学級指導」を取り上げて、自己省察を促し、「教師に求められる資質能力」の中身を討議・検討する。その際には、ICT機器を積極的に活用して、グループによる討議と全体での共有を効果的に実施する（第2・3・4・5・6・7・11・14回）。						
授業計画						
第1回：「教職に求められる資質能力」に関する講義						
第2回：履修カルテに基づく教職課程履修の振り返りと教育実習経験の総合的評価						
第3回：学習指導に関する講話と受講者の「資質能力」に関する自己分析(1)						
第4回：学習指導に関する講話と受講者の「資質能力」に関する自己分析(2)						
第5回：理科・数学・情報の模擬授業(1)						
第6回：理科・数学・情報の模擬授業(2)						
第7回：理科・数学・情報の模擬授業(3)						
第8回：生徒指導に関する講話とロールプレイング						
第9回：進路指導に関する講話とロールプレイング						
第10回：コーディネート力に関する講話とロールプレイング						

第11回：コーディネート力に関する小論文の作成

第12回：SHRのロールプレイング

第13回：LHRのロールプレイング

第14回：教育の新たな地平を切り拓く力

第15回：研究と修養における自己研鑽

テキスト

石井英真・渡邊洋子編（2018）『教職教養講座 教育実習・教職実践演習・フィールドワーク』協同出版

参考書・参考資料等

西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也（2013）『教職実践演習ワークブックーポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

各回の授業課題・レポート課題：40%

最終レポート課題：60%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。